

第三者評価結果（児童心理治療施設）

種別	児童心理治療施設
----	----------

① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人きょうと福祉ネットワーク一期一会

② 評価調査者研修了番号

SK18140
28-052
26-044

③ 施設名等

名称：	社会福祉法人 さざなみ学園
施設長氏名：	辻 亨
定員：	46名
所在地(都道府県)：	滋賀県
所在地(市町村以下)：	滋賀県彦根市鳥居本町1586
T E L：	(0749) 22-2523
U R L：	sazanamigakuen.org
【施設の概要】	
開設年月日	1963/4/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 さざなみ学園
職員数 常勤職員：	33名
職員数 非常勤職員：	3名
有資格職員の名称（ア）	医師
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（イ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	7名
有資格職員の名称（ウ）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	3名
有資格職員の名称（エ）	保育士
上記有資格職員の人数：	6名
有資格職員の名称（オ）	看護師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（カ）	栄養士、調理師
上記有資格職員の人数：	
施設設備の概要（ア）居室数：	36室
施設設備の概要（イ）設備等：	自立促進ユニット
施設設備の概要（ウ）：	心理治療等
施設設備の概要（エ）：	

④ 理念・基本方針

私たちは生きづらさを抱えた子ども達の権利を擁護し、環境を整え、子ども達の健全な発達保障と社会自立を目指します。

⑤ 施設の特徴的な取組

<p>1. 運営理念に含まれる4つのキーワードを重視して、総合環境療法に努めています。①子どもの権利擁護、②環境調整、③健全な発達保障、④自立支援</p> <p>2. 学校教育においては、隣接する県立の特別支援学校（鳥居本養護学校）と連携を図り、施設療育の一環として一人ひとりの児童の状況に応じた教育を保障しています。</p> <p>3. 多様な専門スタッフが「子どもの幸せを応援する」をスローガンに「常に職員は一つのチームである」という意識を持ち子どもたちの支援を行っています。</p>
--

⑥ 第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2020/7/2	
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2022/5/20	
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成29年度	

⑦総評

◆施設の概要

さざなみ学園は、昭和38年に虚弱児施設として開設しましたが、平成10年に情緒障害児短期治療施設として施設種別変更を行い、不登校児童から被虐待児童及び発達障がい児童へと入所児童が変化する中で、現在は滋賀県唯一の児童心理治療施設として児童入所定員46名、通所定員15名（現在停止中）の治療にあたっています。「子どもの幸せを応援する」をスローガンに常に子どもの声を大切にする姿勢は、子どもの自治会活動（スマイル児童団）やこころの郵便局などの取組からも見受けられます。また、近年、入所児童の大半を高校生が占める傾向にあり、特に高校卒業後の進路、社会自立に向けての指導、職場開拓や地域支援体制構築など積極的に関係機関と連携し進めています。

◆特に評価の高い点

【通番4】 中長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。

「さざなみ児童療育センタープラン2020～2023」を中長期計画として明文化しています。副主任以上の職員や公認会計士、税理士及び一級建築士で構成される「NEXT」のメンバーで収支計画と連動させながら、将来像や具体的に取り組むことについて、検討をしています。また、中長期計画に基づき、4つのワーキンググループを立ち上げ、課題別に職員で検討を図っています。職員が一体となって取り組まれていることは高く評価できます。

【通番33】 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取り組みを行っている。

子どもの意見集約の仕組みがしっかり整備されています。施設内に意見箱「こころの郵便局」が設置され、施設長あてと職員あてがあり、実際に意見が入っています。また、子どもの自治会活動であるスマイル児童団を設け、職員との話し合いを月1回程度実施しています。具体的に自動販売機のメーカーを変えてほしいという要望で変更したり、外出について、効率の良い方法を児童団と検討して変更したり、丁寧に子どもの声を聞いて実現をしています。

【通番A2】 子どもと職員との間に信頼関係を構築し、生活体験を通して発達段階や課題を考慮した支援を行っている。

子どものいるリビングに職員が出向いてコミュニケーションをとるようにし、担当職員は、個別の話題で話し合うようにしています。また、野球やサッカーなど身体動かすことやモノづくりが好きな子どもなど様々なニーズがあるため、アンケートや日々の関わりなどで把握するなど一人ひとりに対するきめ細かい支援が行われています。

◆改善が求められる点

【通番15】 総合的な人事管理が行われている。

期待する職員像として行動基準は明文化しています。事業計画でキャリアパス、人事考課システムの導入準備を挙げていますが、現状においては、人事考課制度の仕組みの導入まで到達していませんでした。今後はキャリアパスと連動した人事考課の仕組みの確立、階層別の研修の体系化（通番17～19）などが望まれます。

【通番45】 子どもに関する記録の管理体制が確立している。

「文書管理規程」を整備しており、保管、保存、廃棄、記録管理責任者が定められています。また、「個人情報管理規程」を整備しています。しかし、情報開示にかかる規程が不十分であり、個人情報の取り扱いについての研修が行われていませんでした。リスク管理の観点からも早急に整備されることを期待します。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

これまでの第3者評価については、大阪府社協に受審を依頼してきた。大阪府社協のサーベイヤーは、社会的養護施設の管理職の経験者が多く、現場にも精通している。今回の受審は社会福祉全般からの新たな視点により、施設の取組を見てもらうことが出来た。

また、第3者評価受審のための作業を通じて、支援のあり方や方法などの振り返りに加えて、外部からのアドバイスを頂き、再検討出来る良い機会となった。

第三者評価結果（児童心理治療施設）

共通評価基準（45項目） I 治療・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する治療・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
ホームページやパンフレットに理念を明示している。玄関にも掲示しており、職員や保護者がみることができるようにしている。年度初めの職員会議にて、事業計画や理念、権利擁護についてなどを確認や周知を行っている。子どもの自治会を設けており、理念としては伝えていないが、職員だけで決め事をするのではなく、理念に基づき、子どもの意見も聞くようにしている。また、広報誌に理念を明記し、保護者などに啓発している。		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、治療・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設（法人）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に治療・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
施設長が国や県の動向を施設長会等によりキャッチするようにしている。主任以上が出席する主任会議や部長以上が出席する運営会議にて、情報共有するとともに課題として挙げて検討している。地域で困難を抱えている子どもを支援することが必要ととらえ、守山に地域包括支援センター（県、県社協、社会的養護関連の施設、関係諸機関等による協議会形式）を設立しており、さざなみ学園からも職員派遣を行っている。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や治療・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
運営会議や理事会でも経営課題や運営について検討をしている。人材育成が課題となっており、部長・次長等の役職者を中心に検討を重ねている。心理治療施設だけで、この施設が成り立つのかなど、経営的な視点と国の動向も見ながら、事業種別を増やすなどを検討している。学園本体が築年数30年を迎え、修繕を要する箇所もでてきているため大規模改修が必要と考えている。		

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
「さざなみ児童療育センタープラン2020～2023」を中長期計画として明文化している。50名定員の現在の施設のあり方について定員を減らすことや、乳児院が県下で1か所しかないところで、低年齢層への支援への拡大などを掲げ、理事会でも賛同を得ている。副主任以上の職員で構成される「NEXT」のメンバーで収支計画と連動させながら、将来像や具体的に取組むことについて、検討をしている。また、年度単位で取り組むことについて、行動指針を明確化している。		
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
中長期計画に基づき、4つのワーキンググループを立ち上げ、課題別に検討を図っている。(マネージメント、システム、キャリア、性教育(性と生)に分かれている。)職員の働きやすさや子どもとの関わり方や人材育成などについて検討を行っている。ワーキンググループごとに計画を立てており、ワーキンググループごとに評価をしている。ワーキンググループは、NEXTの下部組織になっており、様々な職員が参画しており、全員が考える仕組みとしている。「2021年度運営事業計画・事務分掌」を整備している。		
(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
事業計画については、前年度よりの計画内容をもとにワーキンググループを中心に、新たな内容を加えていくように策定している。年度初めの職員会議で周知を図るとともにその年度の運営事業計画・事務分掌を全職員に配布している。職員の意見を集約して3学期に主任会などで振り返りを行い、次年度の計画・分掌等を策定している。		

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

「さざなみ学園保護者会」を設けており、年度初めに総会を開催し、理念の周知や事業報告、事業計画などを周知している。コロナ禍の中で昨年度と今年度は資料送付のみとなっている。各々の課題もあり、子どもに向けての周知ができていない。今後は、食堂への掲示や集会などを活用し、子どもにとって身近な内容にするなど工夫して伝える方法の検討が望まれる。

4 治療・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 治療・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく治療・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

年1回、全職員を対象に自己評価に取り組んでいる。支援計画を作成する際にあわせて評価を行っている。また、県より子どもの権利が守られているかの調査(子どもの権利擁護委員による訪問、聞き取り調査)があるため、見直しの機会となっている。第三者評価の結果については、課題となったことを主任会議でチェックをして、現場に効果的におろすようにしている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

評価結果に基づき取り組むべき課題として、施設のホームページなど情報発信が十分ではないとなった点について、運営会議で検討して対応したことがある。また、ソフト面、ハード面については、運営委員会で検討し、ソフト面は主任会議で検討するなど、役割分担をして確認している。しかし、それを書面にしたものはなく、今後は、優先順位をつけて計画的に実施することが望まれる。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	
【判断した理由・特記事項等】		
広報誌に施設長の挨拶を書いており、施設内の役割について明文化している。施設長は、職員会議には参加をするようにしており、参加できない場合は会議録に施設長が伝えたいことを事前に記載しておくようにしている。施設長が不在の際の体制については、事務分掌で明確化しているが、現場の有事等への体制整備まではできていないと認識しているため、体制の確立が望まれる。		
②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	
【判断した理由・特記事項等】		
全国児童心理治療施設協議会や集団指導などで情報集をしている。また、県の担当課などの通知で最新の情報を得ている。法令的な変化にはその都度、迅速に対応をするようにしているが、職員へ周知する仕組みができていない。関係法令のリスト化はされていない。今後は、NEXTや運営会議で周知し、職員へ伝える仕組み作りが望まれる。		
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
①	12 治療・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の間で模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
各種会議、子どものケース会には可能な限り参加している。研修について、ワーキンググループに指示し、充実を図っている。全体研修の実施、研修助成(2万円)を出す仕組みをつくるなど、研修の機会確保について、施設長のリーダーシップにより取り組んでいる。全国での研修の他、全国レベルでの役員など必要なことについては、職員を派遣するなどしている。		

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

研修の充実、支援の個別化や有休の取得などを改善するために、人員の確保及び体制整備を図ってきている。マネージメントのワーキンググループ内で、働きやすいシフトや職員体制、手当などについて検討をして運営会議などに提案している。Googleを活用して、オンラインによる打合せをしたり、GoogleジョブズやLINEワークスを活用した求人その他、施設情報の取得やオンラインミーティングの実施、自宅での情報取得、書類確認ができるよう、ICTを活用して業務の効率化が図られている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	<p>14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 治療・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。</p> <p>(5種別共通)</p> <p><input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。</p>	<p>b</p> <p></p> <p></p> <p>○</p> <p>○</p>
【判断した理由・特記事項等】		
<p>運営事業計画に「人材採用計画」「職員研修体制整備」について記載されており、必要な資格の職種の割合や研修体系について明文化されている。人員募集は常時するようにしており、大阪の業者と連携してホームページを作成し、LINEワークスやグーグルジョブズを活用して人材確保に励んでいる。しかし、具体的な採用計画として明文化されているものはない。</p>		
②	<p>15 総合的な人事管理が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。</p> <p><input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p></p> <p></p> <p></p>
【判断した理由・特記事項等】		
<p>期待する職員像として行動基準は明文化されている。事業計画でキャリアパス、人事考課システムの導入準備を挙げているが、現状においては、人事考課制度の仕組み導入ができていない。ワーキンググループで、キャリアパスの仕組みづくりに取り組んでいる。主任会で、3年5年10年の職員に何を目標として欲しいかについて提示している。</p>		
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
①	<p>16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。</p> <p><input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【判断した理由・特記事項等】		
<p>次長が労務管理を行い、有給取得率、時間外労働についての把握をしており、適宜、有給取得の相談に応じている。メンタルサポートの窓口をつくり、関連機関の紹介をしている。産休・育休等の取得の実績もあり体制が整備されている。共済会、ソウエルクラブへの加入をしている。人材確保及び魅力発信については、ホームページの見直しなど企業との連携を進めている。</p>		

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

期待する職員像として行動規範を明文化している。職員一人ひとりの資格取得等の把握をしており、年度末にヒアリングを実施している。また、新任職員にはスーパーバイズの仕組みを整備して目標確認などを行っている。今後、キャリアパス及び人事考課制度の導入も検討している。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す治療・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している治療・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

期待する職員像として行動規範を明文化している。研修体系の整備等はワーキンググループで検討中である。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	

【判断した理由・特記事項等】

ブラザー・シスター制を取り入れ、年齢の近い職員が1年間マンツーマンで指導する仕組みを作っている。担当職員以外にも、副主任や主任がアドバイスや話を聞く仕組みを作っており、早く現場に慣れるようにしている。一人2万円までの研修助成費も予算化されており、申請することで必要な研修に参加することができる仕組みがある。階層別研修等の研修体系は未整備である。また、外部からのスーパービジョン体制は検討中である。

(4) 実習生等の治療・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の治療・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	□実習生等の治療・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	□実習生等の治療・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	□専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	□指導者に対する研修を実施している。	○
	□実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

保育実習、社会福祉士実習を受け入れている。心理士の受け入れ態勢はあるが、実質的な受け入れはしていない。実習受け入れ担当者を都度、決めており、個別に相談しながら受け入れている。各資格の実習受け入れ要綱が整備されている。また、当日の受け入れの流れも明文化されている。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果																		
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="130 224 526 280">①</td> <td data-bbox="526 224 1276 280">21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。</td> <td data-bbox="1276 224 1385 280">a</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="526 280 1276 347">□ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、治療・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。</td> <td data-bbox="1276 280 1385 347">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="526 347 1276 414">□施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。</td> <td data-bbox="1276 347 1385 414">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="526 414 1276 470">□第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。</td> <td data-bbox="1276 414 1385 470">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="526 470 1276 526">□法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。</td> <td data-bbox="1276 470 1385 526">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="526 526 1276 582">□地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。</td> <td data-bbox="1276 526 1385 582">○</td> </tr> </table>	①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a		□ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、治療・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○		□施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○		□第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○		□法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○		□地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○	
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a																	
	□ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、治療・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○																	
	□施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○																	
	□第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○																	
	□法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○																	
	□地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○																	
【判断した理由・特記事項等】																			
ホームページを活用して、理念や支援の内容等について外部に発信をしている。（今年度は、新しい業者にホームページ作成を依頼し、よりわかりやすくする予定である。）広報誌は、児童相談所や地域の小学校の集会、地区の回覧板などで配布している。																			
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="130 705 526 761">②</td> <td data-bbox="526 705 1276 761">22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。</td> <td data-bbox="1276 705 1385 761">a</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="526 761 1276 828">□施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。</td> <td data-bbox="1276 761 1385 828">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="526 828 1276 896">□施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。</td> <td data-bbox="1276 828 1385 896">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="526 896 1276 963">□施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。</td> <td data-bbox="1276 896 1385 963">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="526 963 1276 1019">□外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。</td> <td data-bbox="1276 963 1385 1019">○</td> </tr> </table>	②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a		□施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○		□施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○		□施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○		□外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○				
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a																	
	□施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○																	
	□施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○																	
	□施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○																	
	□外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○																	
【判断した理由・特記事項等】																			
財務については、内部統制として税理士と顧問契約し、月1回のチェックに入ってもらっている。法人の監事にも監査をしてもらっている。監事は、税理士と福祉の専門職に依頼している。経理規程を整備しており、小口現金の扱い等についても記載されており、職員も規則を理解した上で執行をしている。																			

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
【判断した理由・特記事項等】		
地域との関わり方については基本方針に明記している。地域の文化祭に子どもと一緒に参加をするようにしている。また、中山道のお祭りがあり、子どもたちと出かけて買い物をすることもある。後援会より、寄付等の様々な支援を受けることがある。音楽発表会をしている。子どもは、外出の練習をした上で、土日を利用して彦根市内等へ一人で買い物に行ける様になっている。		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
「さざなみ学園ボランティア受け入れ規程」「受け入れについて」「ボランティア保険」について、明記し整備している。小中学校から応援要請があり、スクールカウンセラーとして臨床心理士を毎月派遣している。今までは、園庭などの樹木の剪定ボランティア、サッカーをいっしょにしてくれるボランティア、学習ボランティアを受け入れていたが、コロナ禍で現在は樹木の選定ボランティアのみとなっている。		
(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○
【判断した理由・特記事項等】		
「全国児童心理治療施設協議会施設名簿」「官公庁」「滋賀県児童福祉入所施設協議会・オブザーバー」「病院関係」「進路関係」のリストを整備している。「滋賀県児童福祉入所施設協議会」では、職種別の部会が設定されており、参加している。要保護児童対策地域協議会への参加など、学校や児童相談所、地域の福祉課との連携を行っている。必要な情報等については、職員会議で共有している。		
(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
他施設、他機関の役員を担うことで、会議や委員会、地域や他業種、異なる福祉施設との交流を通じて、福祉ニーズや課題の把握に努めている。		

②	<p>27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。</p> <p><input type="checkbox"/>多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設(法人)が有する治療・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
---	---	---

【判断した理由・特記事項等】

鳥居本地区と彦根市が連携し、まつりや見回り等の4つの委員会を設置しており、そこに職員が参加をして、一緒に活動をしている。彦根市のまちづくり協議会に役員として参加している。施設の専門性を生かし、スクールサポート事業（彦根市教育委員会と連携し、セラピストを学校へ派遣）を実施している。また、里親支援のために専任の担当者を法人独自で設けている。

Ⅲ 適切な治療・支援の実施

1 子ども本位の治療・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した治療・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した治療・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した治療・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した治療・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の治療・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
児童心理治療施設倫理綱領を運営事業計画に明記し、職員が実践するよう促している。それをもとにケア基準を作成している。「子どもの幸せを応援する」というスローガンのもと、職員が協力して治療的療育にあたるよう、毎日の打合せでスローガンを確認している。「児童心理治療施設さざなみ学園業務標準」で基本理念を明記している。ケアの中で何を大切にするかについて、職員会議前に職員研修の時間とし、伝えるようにしている。子どもの権利ノートを用いて新人職員に研修を実施している。定期的な評価ができています。		
②	29 子どものプライバシー保護に配慮した治療・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した治療・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○
【判断した理由・特記事項等】		
「子どものプライバシー保護等の権利擁護に関する規程・マニュアル」を整備している。「さざなみ学園 学園生活のしおり-子どもの権利ノートサブノート」を整備しており、プライバシーについて明記している。子ども達の個室にはカギがかかるようになっている。また、行事に保護者が来園した際に、撮影した写真をSNSに挙げることは控えて頂く様に声掛けをしている。		
(2) 治療・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
①	30 子どもや保護者等に対して治療・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、治療・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○
【判断した理由・特記事項等】		
入所前に児童相談所より、施設についての説明があり、体験入園をしてもらったうえで入所が決定するシステムを作っている。過去には、何度も体験入園を繰り返し、入所したという経緯がある子どももあり、自己決定を重視している。見学時には、入所のしおりの必要なページのコピーやパンフレットを渡し説明をしている。見学希望時に、聞きたいことを事前に聞いておくようにしている。		

②	31 治療・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが自らの課題を可能な限り認識し、施設が行う治療・支援について納得し主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の開始・過程における支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【判断した理由・特記事項等】

支援の開始時には、しおりとパンフレットで説明をして、支援の同意書を交わしている。ここに入所して、どうなりたいかについて聞くようにしている。本人への同意などは、歪んだ受け取り方がないよう、絵で描くなど視覚的な工夫をするなどをしていく。入園受け入れは部長が担当者とともに行う。セラピストとワーカーの2人一組で入所時の聞き取り面談を行っている。

③	32 治療・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり治療・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、治療・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【判断した理由・特記事項等】

子ども家庭相談センター等と連携を行い、移行がスムーズに行えるよう支援を行っている。「措置変更や地域移行にあたり治療の連続性への配慮」として、明文化したものがある。退所後は、高校卒業後に一人暮らしを行い、地域にある関係機関や家族の支援を受けながら生活する場合もあるが、グループホームや寮に入ることが多い。稀に措置変更で養護施設に入所することもある。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもの意見集約の仕組みがしっかり整備されている。施設内に意見箱「こころの郵便局」の設置があり、施設長あてと職員あてがあり、実際に意見が入っている。年に2回、部屋替えの時とその他2回、生活について、子どもに意見を聞く機会を設けている。児童代表のスマイル児童団を設け、職員との話し合いを月1回程度実施している。システムワーキンググループが担当し、児童団を通す必要があるものは聞き取りを行い、職員会議で検討するようにしている。自動販売機のメーカーを変えてほしいという要望で変更した。外出について、効率の良い方法を児童団と検討して変更した。インターネットの利用の仕組みを子どもと相談して決めた。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、治療・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

玄関に苦情の仕組みについて掲示されている。チャート図にしてありわかりやすいものとなっている。児童相談所から配布される権利ノートに相談窓口や連絡先が明記されている。入所のしおりにも相談方法について明記されている。意見箱「こころの郵便局」が設置され、実際に運用されている。子どもや保護者の苦情や意見についても記録している。広報誌やホームページなどで苦情等についても公開している。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

入園時に権利ノートやサブノートを手渡し、子どもたち自らが意見を述べることの大切さとその方法を伝えている。管理棟の面接室など、子どもが安心して話せるスペースも確保している。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の治療・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、治療・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

子ども一人に、ケアワーカー・セラピスト1名ずつの担当をつけている。場合によっては、保護者担当をつけている。しかし、相談、意見、苦情を受けた場合の手順等を定めたマニュアルは作成していない。また、こども記録ノートにすべて集約するようにしていることを職員は理解している。その後の対応についての手順がないため整備が望まれる。

(5) 安心・安全な治療・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な治療・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
施設内の事例だけでなく、他施設での事例を聞いており、それを職員で共有するようにしている。AEDを設置しており、使用方法の研修を行っている。しかし、リスクマネジメント委員会の設置やマニュアルの作成ができていない。また、事故内容を蓄積し、分析や業務改善につながる取り組みがない。ヒヤリハットについての報告を出す仕組みがない。情報の透明性や職場風土の醸成にもつながるため、リスクマネジメントシステムの作成が望まれる。		
②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
健康管理委員会で各種感染症の対応マニュアルを作成し、整備している。職員会議にて、看護師より職員へ流行期前に研修するようにしている。新型コロナウイルスについては、エマージェンシーチームを設け、掲示物を作成したり、職員会議前に訓練を実施するなどしている。感染者が出た後のBCPについても整理している。		
③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても治療・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
【判断した理由・特記事項等】		
「防火管理・防災対策規程」「非常災害対策計画」等の災害に関する規程を作成し、整備している。備蓄品表も作成している。避難訓練時のマニュアルが整備されており、夜間想定を不空避難訓練を実施している。子どもが外出時の安否確認の方法なども明確化している。しかし、「事業継続計画(BCP)」が定められていないため、突発的な災害時でも治療・支援が継続できる様に継続計画の作成が望まれる。		

2 治療・支援の質の確保

(1) 治療・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 治療・支援について標準的な実施方法が文書化され治療・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○
【判断した理由・特記事項等】		
「児童心理治療施設さざなみ学園業務標準」を明文化し、これに基づいて治療や支援を実施している。プライバシーの保護についても明記している。新任職員には、業務標準を活用してOJTを行う仕組みがある。		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
業務標準を年度末に確認し、必要に応じて見直しを行っている。		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な治療・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な治療・支援が行われている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
部長が自立支援計画策定の責任者となっている。「自立支援計画票マニュアル」を整備し、更新時期やその際の手順などが職員が共有できるようにしている。「自立支援計画票書き方」を定めており、担当を中心に策定するようにしている。「入園児童基本シート」を入所時にフェイスシートとしてもらい、自立支援計画票を作成している。		

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに治療・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、治療・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、治療・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【判断した理由・特記事項等】

計画の評価は1年としているが、年2回開催のケースカンファレンスで見直しを行っている。また、「自立支援計画票マニュアル」を整備し、更新時期やその際の手順などが職員が共有できるようにしている。しかし、緊急に変更する場合の仕組みが充分ではないため、自立支援計画を柔軟に変更できるシステム作りが望まれる。

(3) 治療・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する治療・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく治療・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

「月間児童観察記録」と個別観察記録、心理治療の記録、施設全体の日々の業務日誌を作成している。ひと月ごとの表紙(大まかなことを書くところ)があり、自立支援計画から、中長期的な計画を見ることができ、短期的な内容は、その日ごとに見ることができる書式となっている。記録の書き方について、事実と考察が混じっていたりすることがあった場合には、主任などから、指導をするようにしている。日々の記録の上に子どもの動性、連絡事項等で仕分けできるようにしており、情報共有ができる仕組みにしている。職員会議(月2回)やケース会議で情報共有を行っている。クラウドで職員全員がつながり、情報共有を図っている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	

【判断した理由・特記事項等】

「文書管理規程」を整備しており、保管、保存、廃棄、記録管理責任者が定められている。「個人情報管理規程」を整備している。しかし、情報開示にかかる規程が不十分である。また、個人情報の取り扱いについての研修等の実施が望まれる。

内容評価基準（20項目）

A-1 子どもの最善の利益に向けた治療・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果
<p>① A1 一人ひとりの子どもの最善の利益を目指した治療・支援が、総合環境療法を踏まえた多職種連携の取り組みで実践されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画に、子どもの課題の解決に向けて福祉、心理、医療、教育の連携による総合的治療・支援方針が策定され、支援が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員が日々の治療・支援について振り返り、子どもの最善の利益の観点から、必要に応じて助言を受けられる環境や相互研鑽ができる体制が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 個々の子どもに心理治療担当を配置し、必要に応じて個別心理療法および集団によるコミュニケーション活動及び表現活動を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 精神科的医療ケアの必要な子どもに対して必要に応じて、児童精神科医等の診療を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 重篤なケースについては、入院治療が必要になる場合に備え、外部の医療機関と連携し、必要に応じて話し合い等を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>自立支援計画が策定され、それに沿って支援を行い、必要に応じて精神科の先生よりアドバイスを受けている。(1回に2~5ケースくらいを見てもらう。)入所前より、精神科にかかっている子どもについては服薬があり、職員が必ず付き添って通院している。(保護者同伴の場合も同様)サッカーなどの運動を取り入れたグループワークを取り入れている。今年は音楽活動も取り入れている。ポディーチューニングワークも行っており、身体を動かすようなことも取り入れている。医療保護入院はほとんどないが、医療機関と連携して医療保護入院に至るケースもまれにある。</p>	
<p>② A2 子どもと職員との間に信頼関係を構築し、生活体験を通して発達段階や課題を考慮した支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもから相談を受けたり生活場面でのことについて、個別に話し合ったりする機会や一緒に活動する時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設生活において多種多様な生活体験(創作活動など)を通して、ものごとを広い視野で具体的、総合的にとらえる力や、豊かな情操が育まれるような活動が組み込まれている。</p> <p><input type="checkbox"/> 個々の子どもの発達段階や課題に応じて、日課は出来るだけ柔軟に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> つまづきや失敗の体験を大切に、行動上の問題等があった場合も背景にある心理的課題の把握に努め、自己を向上発展させるための態度が身に付けられるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 問題の解決に当たって、謙虚に他から学び、他と協力していける力量や態度を形成できるようグループ活動などを取り入れ支援している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>子どものいるリビングに職員が出向いてコミュニケーションをとるようにしている。担当職員は、個別の話題で話し合うようにしている。個別の時間は定期的に取りるようにしている。子どもからの申し出もあり、半数以上は聞いてと言われることが多い。野球やサッカーなど身体動かすことやモノづくりが好きな子どもなど様々なニーズがあるため、アンケートや日々の関わりなどで把握するようにしている。日常生活で興味のある子には、創作活動などに触れられるようにしている。</p>	
<p>③ A3 子どもの発達段階に応じて、さまざまな生活技術が身に付くよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物をする体験、一人で買物をする体験などを通して、経済観念や店員とのやり取りなど地域生活に必要なスキルが身につくよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 小遣いの用途については、子どもの自主性を尊重し、不必要な制限を加えず、計画的な使用等金銭の自己管理ができるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、電話の応対、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域での生活を見据えて、発達段階に応じて一人での受診や、市役所、図書館、郵便局などの公共機関、交通機関を利用するなど、様々な生活技術を学ぶプログラムを実施している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>子どもの年齢や発達段階に応じてさまざまな生活技術が身につくように支援をしている。購買の取り組みを通じて、買い物の楽しさや金銭管理を身に付けている。ネットやPCの取り扱いなどをルールに応じて使用するようにしている。外出許可を得るまでのところで、購買の取り組みをしたり、図書館の利用の仕方を職員が同行する中で実施している。</p>	

④	A4 子どもに暴力・不適応行動などの行動上の問題があった場合には、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 行動上の問題がある子どもについては、訴えたいことを受け止めるとともに、問題となる行動を観察・記録し、誘引や刺激等の要因、人的・物的環境との因果関係を分析し治療・支援を行うとともに、自分の意思を伝えるための適切な方法を学ぶ機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 行動上の問題のある子どもについて、その特性等をあらかじめ職員間で情報の共有化をはかり連携して対応できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの心身を傷つけずに対応するとともに、周囲の子どもの安全を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 自傷他害の危険性が極めて高いと判断されるなど、子どもの安全確保のために他に取るべき方法がなく、子どもの最善の利益になる場合に限り、マニュアルに基づいて行動等の制限が最小限の範囲で行われ、その記録が残されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行動等を制限するケアについて、具体的な例を示して職員に周知するとともに、子どもに知らせ、子どもが納得できない場合、苦情解決制度やその他の方法を用いて改善を求めたり意見を述べることを知らせている。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもの訴えたいことや発言は、丁寧に記録をするようにしている。暴力行為として課題を表出する子どもがあり、警察と共同で対応することもある。行動制限することも仕方なく行うこともあり、マニュアルを作成して対応している。地域保険法を用いて、警察と連携して対応することもある。その際には、記録に残すようにしている。子どもそれぞれの手順マニュアルも整備している。

(2) 子どもの意向への配慮や主体性の育成

①	A5 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちのこととして主体的に考えるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分および自分たちの生活がより良くなるように考える機会(個人面談、子ども会など)をさまざまに用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 活動、行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重し、自発的な参加となるように支援し、日常生活を含め行事等のプログラムに追われることなく、ゆとりある生活が過ごせるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども自身が自分たちの生活全般について、自主的・主体的な取組ができるような活動(施設内の子ども会、ミーティング等)を実施し、子どもの自己表現力、自律性、責任感などが育つよう、職員は必要な支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に小集団活動、行事の企画・運営に関わることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 活動で決定した要望等について、施設や職員は可能な限り応えている。	○

【判断した理由・特記事項等】

行事等の運営等はコロナ禍で制限されたが、リビングの設置により、職員と子どもがゆったりと過ごし話す機会も増えた。これまでと同様に意見箱「こころの郵便局」に入っている要望や児童団活動を通じての要望には可能な限り対応に心がける様、期待する。

②	A6 子どもの協調性を養い、他者と心地よく過ごすためのマナーや心遣いができるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設のルール、約束ごとについては、話し合いの場が設定されており、必要に応じて変更している。	○
	<input type="checkbox"/> 社会生活の規範等守るべき約束ごとを理解できるよう子どもに説明し、それらを尊重した行動をとるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 外出や買い物など社会的ルールを習得する機会を設けている。	○
<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	○	

【判断した理由・特記事項等】

張り紙やルールの確認などについて施設内に多く掲示されている。入浴時間や食事時間などのルールを明記し、子どもがこの時間までに何をやるかの目安が立てやすいようにしている。学校で社会見学をしたり、学校と施設で協働した行事の企画をし、社会的ルールに配慮して綿密に企画している。外食や外出時にルールを教えている。

(3) 子どもの権利擁護・支援

①	A7 子どもの権利擁護に関する取り組みが徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、施設としての基本的な考え方や方針が明示され、それに基づく規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた治療・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもとの関わりが得られない親の対応に、適切な親権の行使として未成年後見制度などの活用を視野に入れた支援を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に学習や検討する機会を定期的に設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの保護のために、児童虐待防止法12条の「面会等の制限等」を適切に行っている。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

町内の外出と市内の外出各々にルールがあったが、子どもとの話し合いでルールを少なくすることを実施した。SSTについては、グループよりは、個別の中で必要に応じて行っている。「権利ノート」を必ず説明するようにしている。これにより、職員の理解や本人への具体的な取り組みとなっている。面会禁止の保護者の来園時の基本対応を定めている。

②	A8 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 定期的に子どもの状態に応じて権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料を使用して日常生活の中で起こる出来事を通して、守られる権利について子どもたちに説明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などの問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行うとともに、起こった場合の早期対応について子どもや職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設だけでは暴力やいじめに対する対応が困難と判断した場合には、児童相談所の協力を得ながら対応している。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

権利ノートを活用して説明をしている。日常生活の中でさまざまな社会ルールを決め施設内に掲示したり、児童団活動を通じて協調性などが身につくように支援をしている。児童相談所や警察（その他関係機関）との連携を図っている。必要に応じて、弁護士にも相談できる体制を整えている。

(4) 被措置児童虐待の防止等

①	A9 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりについて、具体的な例を示し、職員に徹底している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 会議等で取り上げる等により不適切なかかわりが行われていないことを確認している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止の視点から、職員体制の見直し等の検討・取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合の対応方法等を明文化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について対応マニュアルを整備し、研修会などで職員に周知・理解をはかっている。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

「被措置児童等虐待防止マニュアル」を整備しており、フローチャートを作成し、職員へ周知している。以前は、弁護士を講師に呼び、不適切なかかわりの防止について相談する研修を実施した。

A-2 生活・健康・学習支援

(1) 食生活

①	A10 食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫し、栄養管理にも十分な配慮を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが日々の食生活に必要な知識及び判断力を習得し、基本的な食習慣を身につけることができるよう食育を推進し、皆と一緒に食卓で楽しく食べられることを目指して一人で食べることから始めるなど、プロセスを踏むことが保障されている。	○
	<input type="checkbox"/> 温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や子どもの体調、疾病、アレルギー等に配慮した食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 食に関する課題のある子どもへの具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定例的に子どもの嗜好や栄養摂取量を把握し、献立に反映させ、好き嫌いをなくす工夫や偏食支援については、無理が無いよう配慮し実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階や課題に応じて食事の準備、配膳、食後の後片付けなどの習慣や簡単な調理など基礎的な調理技術を習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会を持ち、食文化を継承できるようにしたり、外食の機会を設け、施設外での食事を体験させている。	○

【判断した理由・特記事項等】

栄養士が栄養バランスを考えた献立を提供している。季節や行事に応じた献立や食事アンケートBOXにリクエストとして入っていたメニューを提供する等おいしく食べられるように工夫をしている。誕生日などに個別対応で外食や調理の機会も設けている。

(2) 衣生活

①	A11 子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、整理整頓、洗濯やアイロンがけ、衣類の補修等、子ども自身でできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選び、購入できる機会を設け、個々の収納スペースを確保するなど、「自分の服である」という所有感を持てるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 毎日取り替える下着や、汚れた時などに着替えることができる衣類が十分に確保され、常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものが着用されるよう提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階や課題に応じて、TPOに合わせた服装や自己表現ができるよう配慮している。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもが衣習慣を習得できるよう年齢に応じて洗濯の練習や衣類の整理、自分で選んで購入できるよう買い物などの支援を行っている。衣類にこだわりのある子どもについては、子どものペースや気持ちに寄り添いつつ体に合ったものや季節に合ったものが着れるように支援をしている。

(3) 住生活

①	A12 居室等施設全体を、生活の場として安全性や快適さに配慮したものとしている。	a
	<input type="checkbox"/> 居室は、自分の空間であることを認識する場であるとともに、発達段階や課題に合わせた安心できる空間となっており、リビングスペース等くつろげる空間を確保するように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や発達状況にあった、空間や家具、生活機材が用意されている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 居室の清掃や補修など、施設内外の保健的環境の維持及び向上に努めている。	○
<input type="checkbox"/> 防犯のためのオートロックや防犯カメラなどを設置している。	○	

【判断した理由・特記事項等】

子どもがくつろげる空間として男女ともにリビングの設置をした。共有スペースや居室を清潔に保ち、整理する習慣が身につくように全体清掃の時間を設けており、子どもが掃除や作業に取り組んでいる。必要に応じて、大工（非常勤）が営繕を行っている。

②	A13 発達段階に応じて居室等の整理整頓、掃除等の習慣が定着するよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 居室の整理・整頓、掃除の習慣や洗濯、ふとん干し、各居室のごみ処理などの生活習慣を身につけられるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 戸締り、施錠の習慣や、電灯、エアコンなどの操作を身につけられるように支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自分の部屋や共有空間についての様々な工夫について子どもの意見を取り入れている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 掃除機や洗濯機、ドライヤーや電気髭剃り等の生活に関わる機器の使用に配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 建物・設備の軽度な破損について、簡単な修理を体験できるように配慮している。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

布団干しや居室の掃除については、職員がサポートをしながら行っているが、発達課題から苦手な子どもが多い。寄付でもらった机の組み立てについて自分で組み立てたができるように支援を行った。

(4) 健康と安全

①	A14 発達段階に応じて、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階や課題に応じて、常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄等の状況を職員が適切に把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 洗面、歯磨き、入浴時に体や髪を洗うことなど清潔を保つための支援を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分の体調について注意を払うように支援し、体調について相談しやすいように努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階や課題に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故防止など、様々な危険から身を守るため、交通ルールや外出時の注意点、緊急時の対応の仕方等について日頃から子どもに教え、準備をしている。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

外出ワークや外出練習の中で、社会ルールや外出の注意点などのワークも行っている。基本的な生活習慣については、定着しにくい子どももいる。また、毎日健康チェックしている。糖尿の子どもの健康管理やインシュリン管理なども看護師より、職員に伝えるようにしている。

②	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の医療機関との連携により、必要な受診に即応できる体制がある。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもや服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 薬物の管理及び服薬の手順を施設として定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 様々なアレルギーへの対応や、救命救急対策などについて組織的に行っている。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

服薬確認を看護師と職員で連携して実施している。薬を飲む場面の確認は職員で行っている。救急救命の研修、コロナ緊急対応など実践研修を実施している。

(5) 性に関する支援等

①	A16 子どもの年齢・発達段階等に応じて、性をめぐる課題に関する支援等の機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 発達段階や課題に応じて性に関する支援の基本的な考え方、方針を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 性被害、性加害など性に課題のある子どもに対する支援を自立支援計画をもとに行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢、個々の状況、発達段階に応じて、性をめぐる諸課題について支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をめぐる不適切行動を予防する取組をしている。	○

【判断した理由・特記事項等】

性教育委員会を設け、その中で方針等を決めている。性に関する月間の問題を報告としてまとめたり、児童の関係性の関連図を作成したり、入浴できない子どもへの声かけの方法など、職員間で共有をして対応している。男女の接触の点では、リビングを設けるなど、対応している。CAPのワーク研修を毎年実施している。(コロナ禍で実施できていない。)

(6) 学習支援、進路支援等

①	A17 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援に取り組み、「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に子ども個々の学習に対する構え、学力を把握し、それらに応じた個別的な学習支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の子どものための分館や分校などの学校教育が用意され、日々の子どもの状況の変化等に関する情報が、学校・施設間で確実に伝達できるシステムが確保され、個々の子どもに対する生活支援、学習支援及び進路支援等を相互に協力して実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意したり、学習支援のため、ボランティアの協力を得るなどの配慮をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、保護者等、学校、児童相談所の意見を十分聞くなど連携している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校で生じた子どもの行動上の問題に対しては、学校に協力して対応し、ケースカンファレンスには原則として施設と学校の担当者が参加して検討している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後に通学する学校との連携が適切にとられている。	○

【判断した理由・特記事項等】

自分の部屋で勉強することを基本としている。一人でできない子どもは、クラブ室やリビングで行い、職員に聞きながら学習に励んでいる。子どもが通学する特別支援学校と連携して進路開拓含め取り組んでいる。大学への進学については、大学側にも臨床心理士を配置していることもあり、学生相談室等と連携するようにしている。

A-3 通所支援

(1) 通所による支援

①	A18 施設の療育的機能である生活支援や心理的ケアなどにより、通所による支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 様々な通所プログラムを策定し、子どもの自立支援を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 在宅の子どもの生活実態を的確にとらえ、それに基づき適切な支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 在宅の子どもや家族の支援として通所支援を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて訪問による支援を実施している。	
【判断した理由・特記事項等】		
未実施 * 立地条件などのこともあり、休止している。15名定員の通所から始めたが殆どニーズが無かった。		

A-4 支援の継続性とアフターケア

(1) 親子関係の再構築支援等

①	A19 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立し、家族関係の再構築に向けて支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の基本方針等に、家族への支援や家族療法等に関する基本的な考えや姿勢が示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個々の子どもに家族担当を設け、日常的な連絡や気軽な相談の窓口として活用できるよう案内し、子どもの日常生活の様子や学校、地域、施設等の予定や情報を定期的に家族に伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を独立した専門職として配置し、その役割を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと家族の関係の再構築、家族再統合が可能となるように、児童相談所と協力して親子関係の修復や保護者等の養育力の向上のためのプログラムを継続的に実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと家族との交流について、子どもの意思を尊重し、面会、外出、一時帰宅については、児童相談所等と協議し、個別性に配慮しながら、一定のルールや基準を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 親子が必要な期間一緒に過ごせるような設備を施設内に設けて、家族支援の趣旨に沿った活用がなされている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
児童相談所と役割分担し、相談、連携しながら家族との信頼関係づくりを行っている。全てのケースに家族担当の配置はされていないが必要に応じて担当者を配置して家族の相談窓口としている。家庭支援専門相談員を配置して臨床心理士が担当している。臨床心理士を家庭支援相談員にし、家族支援や家族療法業務にあたっている。業務標準に明文化され、基本的な考えや姿勢を示している。家族応援団を行っている。		
②	A20 子どもが安定した生活を送ることができるよう退所後の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 通所機能や外来機能を利用して、退所後の支援を継続して行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後何年経っても施設に相談できることを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域との関係機関と連携し、退所後の生活の支援体制の構築に努めている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
地域養護支援事業にコーディネーターを派遣する等仕組みづくりに関わり、退所後も継続した地域支援につなげている。継続した養護支援が必要なケースについては、早期より退園後の生活を見据え地域とも連携して進めている。退所した子どもからの電話相談や来園による相談など随時受けている。		